

令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立開成小学校	児童数	414人
-----	-----------	-----	------

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	夢を抱き、心を感じる居場所をめざして 『図書館に行こうぜ!』
	取組期間	令和6年(2024年) 4月 1日 ~ 令和6年(2024年) 11月 30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	414人	実施日数	244日	読書冊数	58058冊	連携した団体数	9団体
	取組内容(概要)	①興味のアンテナを広げ、読書につなげる ②図書館環境を整える(a:明るく心地よい場所をめざして b:読書量の視覚化) ③関係各所との連携						
工夫したこと	取組内容(概要)	①興味のアンテナを広げ、読書につなげる 『本の紹介スピーチ』 今年度から2年生の図書の時間に本の紹介スピーチをする時間を設けた。 幅広い種類の本に出会える機会なので、図書館にある本はジャンルを問わず全て紹介できるようにした。 『博報堂教育財団主催読書推せん文コンクールへ挑戦』 このコンクールはコミックや図鑑や詩集など書籍全てが対象で、「どんな本を選べばいいかわからない」「長い文章を読むのが苦手」「感想文って難しい」と思っている児童でも気軽に取り組みたいと思ひ応募をした。感想文が苦手と思っている児童でも、本を読む楽しさや想いが形になる喜びをこのコンクールを通して感じてくれたらと思う。						
	取組内容(概要)	②図書館環境を整える a:明るく心地よい場所をめざして ガチャ導入 貸出冊数が50冊100冊150冊・・・と50冊をこえるごとにプラス券や予約券等が入ったくじを引くことができる。しかし、おなじみのものばかりで少々マンネリ化していた。そこでくじを引く楽しみをもってもらおうと、そのくじの中に今年度からは新しく「ガチャ券」を加えた。 図書館マナーアップキャンペーン 夏休み明けの1週間を図書館マナーアップキャンペーン期間とした。 図書委員会で話し合い「ブックバッグの整理整頓をする」「貸出返却の時はバーコードを揃える」「本を正しい本棚に戻す」など日替わりで5つの目標を立てた。図書委員がポスターや朝の放送でその日の目標を呼びかけ、全校に周知するようにした。						

	<p>B：読書量の視覚化</p> <p>りんごの木</p> <p>図書館前の廊下には大きなりんごの木がズラリと並んでいる。</p> <p>貸出冊数100冊を達成するごとに赤→ピンク→黄色・・・とリンゴの色が変わっていく。</p> <p>学年の本棚（さくらの花、認定証）</p> <p>各学年で「〇年生の本だな」を60冊ずつ準備している。これは国語の教科書に掲載されている図書を中心に選書しており、その学年に見合った内容となっている。</p> <p>この学年の本棚から本を20冊借りると、図書館内に掲示している桜の木に名前入りの花びらが咲き、60冊全て借りると「学年の本棚 認定書」をもらえる。</p> <p>赤白対抗！図書館玉入れ</p> <p>運動会に向けて校内の士気が高まっていく中、図書館でも何かできないかと思い「赤白対抗！図書館玉入れ」を実施。運動会二週間前から、本を借りると自分の団の色シールをもらえるようにし、図書館に置いている玉入れの台紙にシールを貼ってもらった。</p> <p>③関係各所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア（週3日） ・読み語りボランティア（年8回） ・給食コラボ（4日間） ・佐賀市立図書館団体借受、市内学校との相互貸借 ・図書委員会主催の図書館まつり（年2回）
<p>取り組んだ感想</p>	<p>今年度は今まで取り組んでない新しい催事や掲示物をし、変化を取り入れた。</p> <p>『第二の保健室』とよばれる学校図書館。</p> <p>ただひたすらに貸出冊数だけを伸ばすだけではなく、困った時、教室に居づらい時、図書館に行けば先生や友達に会える、本が読める、楽しい！安心できる！と思ってもらえるような居心地の良い場所づくりを心掛けた。先生また来るね！と笑顔で退室していく姿を見ると、よい時間を過ごしてもらえたと実感できこちらまで嬉しくなる。</p> <p>また備品等も新たに購入することを極力控え、今あるものを最大限に活用しながら「子どもたちが喜ぶこと」を意識して環境整備や本の装備を行っていった。</p> <p>本校は司書、司書補、ボランティア（週3）で20分休みは対応しており、図書委員も当番日以外でも自主的・積極的に活動している。休み時間は貸出返却で混みあう日が多いが、カウンター対応はマンパワーが十分にあるので、司書は館内で一人一人の読書量や好みや性格に見合っただけで対応できる。本を紹介していると『僕もその本気になる！』『借りてみたい！』と本への興味が連鎖していくのを実感した。児童に応じて距離感や読書量を考えながら対応することができたのは、周囲の協力なくてはならないものだと感じている。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>長文の本を読み終えた「達成感」や新しいジャンルの本を開拓していく「楽しさ」を小学生の間に体験できるように、そしてなにより「図書館に行きたい！」という気持ちが大きくなっていくようにこれからもサポートしていきたい。</p> <p>(主な取組予定) 図書館宝くじ、卒業記念品作成</p>

①『興味のアンテナを広げ、読書につなげる』

本の紹介スピーチの様子



紹介する児童は毎回2～4人。幅広い本との出会いが目的であるが、人前で発表できることで自信をつけ達成感を感じてほしいとも考えている。

紹介した後は感想や質問する時間を設けることで「読んでみたい!」という気持ちが広がり、授業後にはお目当ての本を予約する児童がおり読書意欲にも繋がっている。選書には個性が感じられ、回を増すごとに発表の仕方もアレンジが加えられて、「どうしたらみんなに興味を持ってもらえているか」と考えているのが伝わってくる。

②『図書館環境を整える』

a:明るく心地よい場所として

ガチャ導入



ダンボールとペットボトルで作ったガチャ箱には「一日図書委員体験券」「新しい本購入交渉権」「券フルセット」「景品券」の4種類のカプセルが入っている。ガチャをしてみたい!あの券がほしい!と図書館に来る楽しみや笑顔が増えたように感じる。

ミニクイズ『雨がつく漢字わかるかな?』



梅雨の時期に、部首に雨がつく漢字のクイズコーナーを設けた。漢字が貼られた傘の模型をめくると裏面には読み仮名があり、難しい漢字にどんどんチャレンジしていた。

図書館バルーンフェスタ POPをとばそう



手作りモビールで明るく楽しい雰囲気



季節に合わせたクイズコーナー (パリオリンピック)



立体折り紙 (お月見)



b: 読書量の視覚化

りんごの木



図書館は2階渡り廊下の中心にあり、毎日多くの人が行き来しているため、このりんごの木も廊下を通るたびに自然と目が行く。児童はもちろんだが、担任も自分のクラスや他のクラスの貸出状況が一目でわかるので児童への声掛けや頑張りを認めるきっかけにもなっている。

学年の本だな(さくらの木)



図書館前方にさくらの木がある。学年の本だなを20冊借りると花びらが咲き、すべて達成すると認定証がもらえる。認定証は、「年間プラス1冊フリーパス券」としても使うことができる。認定証をもらうまでは時間がかかるがその分達成感も高い。



認定証

(参考) 学年の本だな 達成状況比較 (R5.R6 年度ともに 4/15~10/31 で集計)

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生	達成者合計/ 児童数	達成率
R5 年度	0	7	4	8	5	8	32/443	7.2%
R6 年度	7	3	5	11	6	13	45/416	10.8%

赤白対抗! 図書館玉入れ



運動会前日までそのシール数を競って、多かった団は全員、普段一人1冊制限貸出の新しい本と人気シリーズの本を2冊まで貸出可能の特典をつけた。シールを自分で貼って可視化することで、自分たちの読書量をリアルタイムで実感できていた。

<その他の取組 SDGs など>

新聞・雑誌の活用



図書委員に選んでもらった記事を中心に切り抜きをし、図書館前に掲示して図書館内でもファイリング分を展示。またその記事に関連する本も一緒に掲示をした。

表紙の再利用



余っていたクリアフィルはカードケースに、不要になった表紙のカバーはパズルに、図書館まつりの本の表紙あてクイズに利用した。SDGs を意識して、廃棄物を有効活用した。

背表紙を一新! 手に取ってくれることを願って



中のページはきれいなままなのに、背表紙が劣化してしまい題名が見えない。

本棚に並べてもなかなか手に取ってもらえなかった本に少し手を加えて装備し直すと・・・まるで新品のような印象に。本棚も明るくなり、手に取ってくれることが増えた。